

# (仮称)秋田公立美術大学への編入に関するアンケートについて

平成 2 4 年 1 月 2 4 日  
秋 田 市 大 学 設 置 準 備 室

## 1 調査の目的

秋田市では、平成 2 5 年 4 月に秋田公立美術工芸短期大学を 4 大化する計画を進めるにあたり、美短在学 1 年生を対象に、新大学への 3 年次編入等についてのアンケートを実施し、新大学編入に関する基礎資料とするものである。

## 2 調査対象

秋田公立美術工芸短期大学 1 年生148人 回答者数111人（回答率：75.0%）

## 3 調査時期

平成 2 4 年 3 月に、大学設置認可申請書の編入予定人数等に反映させるため、平成 2 4 年 1 月に調査票を配布し、調査票を回収後、結果をまとめる。

## 4 調査方法

調査は、無記名式（出身地は記述）で行い、調査票は 1 月 20 日および 1 月 23 日に、美短事務局職員が授業の前に配布し、記入後回収した。

## 5 調査票

別紙

## 6 調査結果

別紙

# (仮称)秋田公立美術大学への編入に関するアンケート調査票

秋田市大学設置準備室

秋田市では、地域の伝統・文化をいかし、秋田から世界へ発信するグローバルな人材を育成すること等を目的に、秋田公立美術工芸短期大学を改組し、新たに(仮称)秋田公立美術大学を設置する計画を進めております。このアンケート調査はその一環として、学生の皆さんに新大学への3年次編入等についてお聞きし、新大学編入に関する基礎資料とするものです。皆様のご協力をお願い致します。

なお、このアンケートの結果は統計資料としてのみ用います。個別の調査票を外部の人に見せたりすることはありません。

回答は設問の順に、該当する番号等を回答欄に直接記入してください。

設置予定学部：美術学部美術学科 入学定員 100人(予定)

3年次編入：10人程度(予定)

設置予定時期：平成25年4月

上記の構想は現在検討中であり、決まったものではありません。

問1 あなたの出身は、どこですか。次の中から、1つだけ選んでください。

【回答欄】

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 秋田市内         | 7 近畿地方        |
| 2 秋田県内(秋田市を除く) | 8 中国地方        |
| 3 東北地方(秋田県を除く) | 9 四国地方        |
| 4 北海道地方        | 10 九州地方       |
| 5 関東地方         | 11 その他(具体的に ) |
| 6 中部地方         |               |

問2 あなたは短大卒業後どのような進路を希望していますか。次の中からもっとも希望に近い進路を1つだけ選んでください。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 4年制大学への編入学 | 3 就職         |
| 2 専攻科進学      | 4 その他(具体的に ) |

問3 問2で「1 4年制大学への編入学」を選んだ方にお聞きします。(仮称)秋田公立美術大学に3年次編入を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。それ以外の方は、問6にお進みください。

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| 1 編入を希望する        | 4 わからない      |
| 2 進路の候補の一つとして考える | 5 その他(具体的に ) |
| 3 他大学への編入学を希望する  |              |

問4 問3で「1 編入を希望する」「2 進路の候補の一つとして考える」を選んだ方にお聞きします。「3 他大学への編入学を希望する」を選んだ方は問5へ、「4 わからない」「5 その他」を選んだ方は問6へお進みください。

(仮称)秋田公立美術大学の5つの専攻(別紙参照)のうち、興味を感じたものを次の中から1つだけ選んでください。

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1 アート&ルーツ専攻   | 4 コミュニケーションデザイン専攻 |
| 2 ビジュアルアーツ専攻  | 5 景観デザイン専攻        |
| 3 ものづくりデザイン専攻 | 6 わからない           |

記入後は、問6へお進みください。

問5 問3で「3 他大学への編入学を希望する」を選んだ方にお聞きします。編入を希望する大学の所在地は、どこですか。次の中から、1つだけ選んでください。

- |                |             |                          |   |
|----------------|-------------|--------------------------|---|
| 1 秋田市内         | 7 近畿地方      | <input type="checkbox"/> |   |
| 2 秋田県内（秋田市を除く） | 8 中国地方      |                          |   |
| 3 東北地方（秋田県を除く） | 9 四国地方      |                          |   |
| 4 北海道地方        | 10 九州地方     |                          |   |
| 5 関東地方         | 11 その他（具体的に |                          | ） |
| 6 中部地方         |             |                          |   |

問6 （仮称）秋田公立美術大学について、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

\*\*\* これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。 \*\*\*

アンケートに関するお問い合わせ 秋田市大学設置準備室 018-866-2028

# (仮称)秋田公立美術大学の概要について

秋田市では、「芸術・文化をいかしたまちづくり」に取り組んでいます。

その中核になるように、現在の「秋田公立美術工芸短期大学」を、平成25年4月を目標に美術系4年制大学にする準備を進めています。

新しい「(仮称)秋田公立美術大学」は、美術学部美術学科の中に5つの専攻を置く構成を考えており、これまでの芸術分野にとらわれない新しい芸術を創り出すアーティスト、地域の伝統・文化をまちづくりに活かせるアーティストを育成します。

## 教育上の特色について

### 特色

1～2年次は素材や技法の枠組み( )を越えて、大学で扱う全ての範囲を横断的に学べるユニークなカリキュラム

3～4年次は芸術表現の目的別に5つの専攻に分かれ、専門の技術・知識を深めます。

美術(油絵、日本画、彫刻、メディアアート、インスタレーションetc)、工芸(金属、ガラス、陶磁、漆、木工、染)、デザインetc

### 特色

卒業後の就職や独立を手厚くサポートするキャリア教育

現代社会人として求められる知識や情報処理能力、プレゼン能力などを身に付けるほか、自分の進路について深く考えることができます。

### 特色

秋田の伝統文化( )をキーにして、日本の地域文化への理解を深め、現代の美術として再構築するという独自の教育理念

多様な価値観と柔軟な思考を持つグローバルな人材を育てます。

もくめがね  
銀線細工、空目銅、秋田蘭画、川連漆器、秋田箔摺り、全国最多の重要無形文化財etc

## カリキュラム図

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	[Blue shaded area]							
キャリア教育科目	[Blue shaded area]							
専門共通科目	[Blue shaded area]							
専門専攻科目	[Blue shaded area]							
卒業研究	[Blue shaded area]							
教職/学芸員課程科目	[Blue shaded area]							

就職  
独立

5つの専攻の詳しい内容については裏面へ！



表現の目的別に分かれた5つの専攻（3年次に選択）

ものづくりデザイン

コミュニケーションデザイン

地域固有の素材や技術などを現代の工業デザインの視点で捉え直し、地方色豊かな新製品を提案する

視覚媒体を使った「コミュニケーション・デザイン」の技法を幅広く学び、広告やテレビCMなどを企画制作する

地域の歴史的な文化資源（ルーツ）を調査・研究して、その再評価の中で新たな芸術表現を探求する

「美しい街並や風景のデザイン」を通して、美しく快適でにぎわいにあふれたまちづくりの計画を立案する。

サブカルチャー的な芸術表現など、現代美術の新しい方向性について、様々な素材や媒体を使って模索する

アート&ルーツ

景観デザイン

ビジュアルアーツ

教育の概要

「基礎理論」「作品制作」「フィールドワーク」の3つによって、地域の文化と歴史や日本固有の技法を学び、調査研究の成果を作品制作に活かします。

講義・演習の例

・文化人類学  
・石彫、テラコッタ彫刻  
・日本画  
・アートプロジェクト演習

教育の概要

世代を超えて愛される、使用して充足感が得られるような生活耐久財というコンセプトのもとで、家具から装身具までの多様な製品を制作。独自ブランド化を目指します。

講義・演習の例

・「木材、漆」  
・「金属」  
・「ガラス、陶磁」  
・「染」

教育の概要

景観デザインの考え方をもとに、まちづくりにおける課題を発見し解決するための知識・週報を学び、ワークショップなどの演習を通じて地域社会での実践力を養います。

講義・演習の例

・CAD演習  
・都市デザイン論  
・景観デザイン演習  
・文化行政学

教育の概要

文字・写真・CG・イラストレーション等のツールを習熟して、優れた伝達表現やデザイン全体を構築する総合的なディレクションを可能にします。

講義・演習の例

・タイポグラフィ  
・編集デザイン  
・ポスター  
・パッケージデザイン  
・ウェブデザイン

教育の概要

堅苦しく鑑賞する美術から、「明解さ」「愉快さ」を持ち体で感じるエンターテイメントへの移行を目指し、媒体にとらわれない現代的な作品を制作します。

講義・演習の例

・現代絵画、立体造形  
・イラストレーション、絵本  
・デジタルメディアアート  
・インスタレーション  
・ポップアート

・アーティスト  
・アートディレクター  
・美術研究者  
・評論家  
・ギャラリスト  
・学芸員、教員

・アーティスト  
・家具メーカー  
・ガラス製造業  
・ジュエリーメーカー  
・陶磁器製造業  
・学芸員、教員

・アーティスト  
・デザイン事務所  
・行政機関  
・建築設計事務所  
・広告代理店  
・学芸員、教員

・アーティスト  
・デザイン事務所  
・イラストレーター  
・出版印刷会社  
・メディア関係  
・ゲーム会社  
・学芸員、教員

・アーティスト  
・デザイン事務所  
・イラストレーター  
・出版社  
・広告代理店  
・学芸員、教員

卒業後の進路 … アーティストとしての自立 ・ 専門性を活かした就職へ

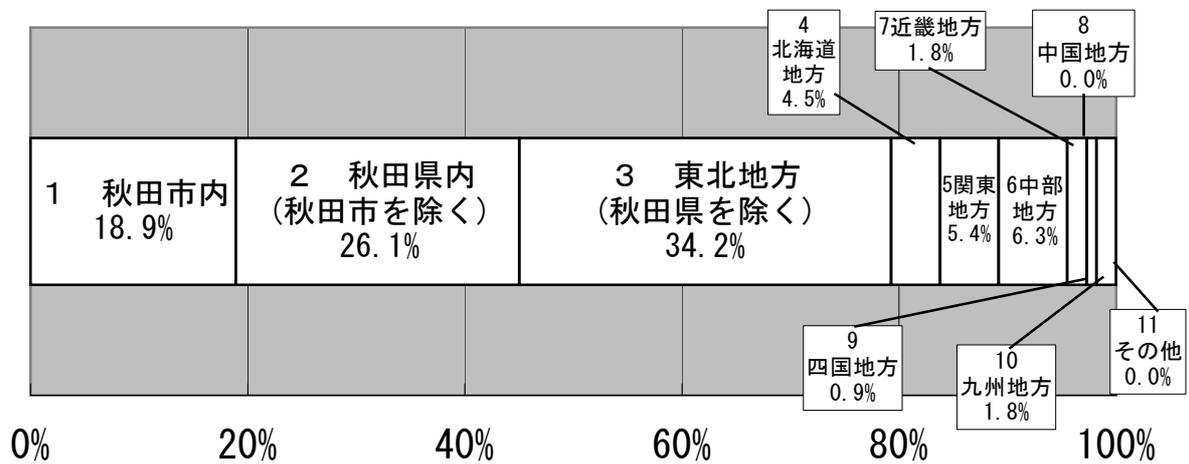
新大学の最新情報や今後の募集についての情報は、秋田市大学設置準備室のHPで発信していきますので、是非ご覧ください。

<http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/eu/default.htm>

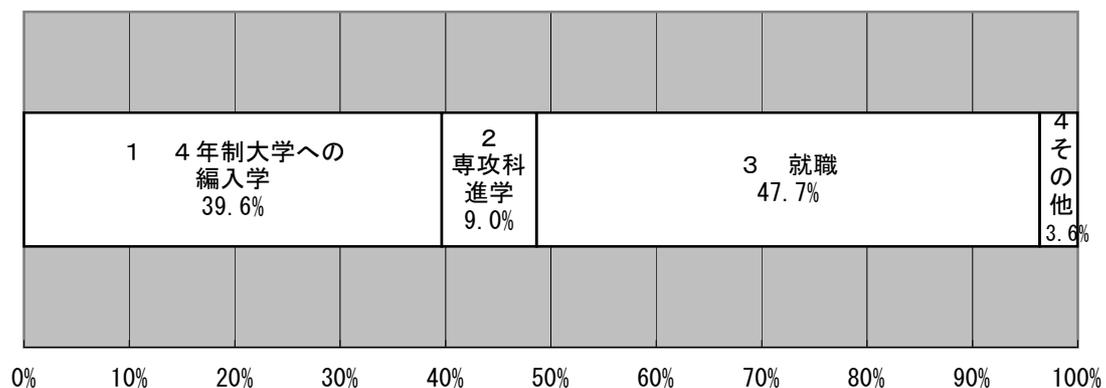
秋田公立美術大学(仮称)の内容については、現在計画中の段階ですので、今後変更される場合があります。

## (仮称)秋田公立美術大学への編入に関するアンケート調査票

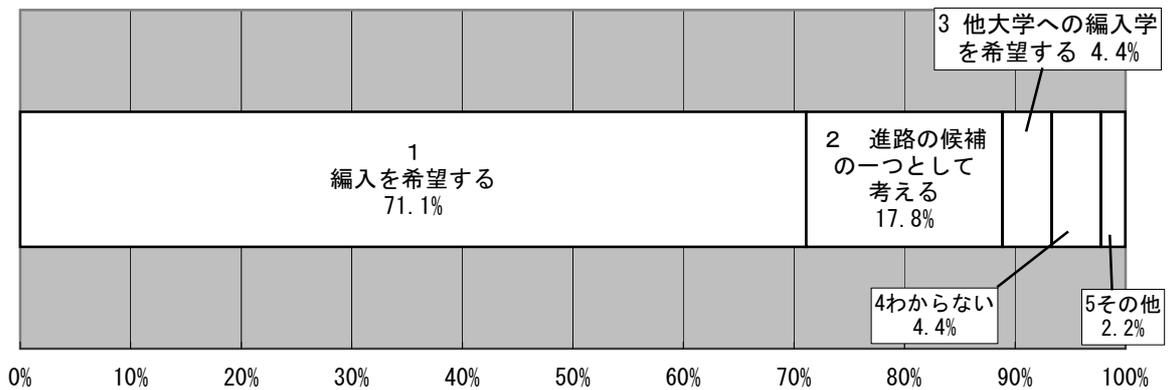
問1 出身地	回答数	割合
1 秋田市内	21	18.9%
2 秋田県内（秋田市を除く）	29	26.1%
3 東北地方（秋田県を除く）	38	34.2%
4 北海道地方	5	4.5%
5 関東地方	6	5.4%
6 中部地方	7	6.3%
7 近畿地方	2	1.8%
8 中国地方	0	0.0%
9 四国地方	1	0.9%
10 九州地方	2	1.8%
11 その他（具体的に）	0	0.0%
計	111	100.0%



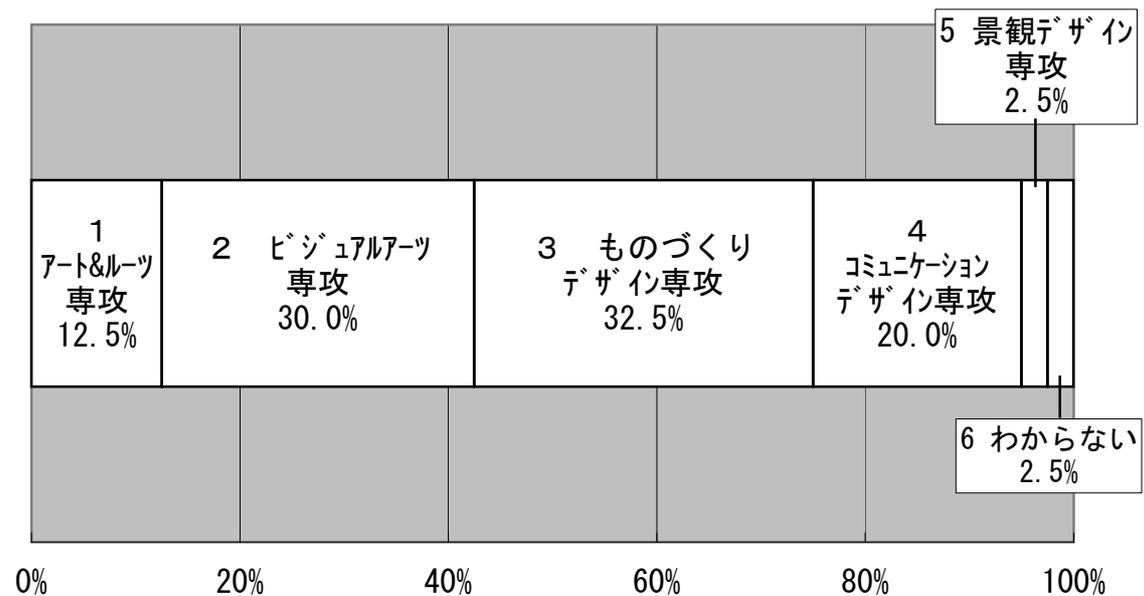
問2 卒業後の進路	回答数	割合
1 4年制大学への編入学	44	39.6%
2 専攻科進学	10	9.0%
3 就職	53	47.7%
4 その他	4	3.6%
計	111	100.0%



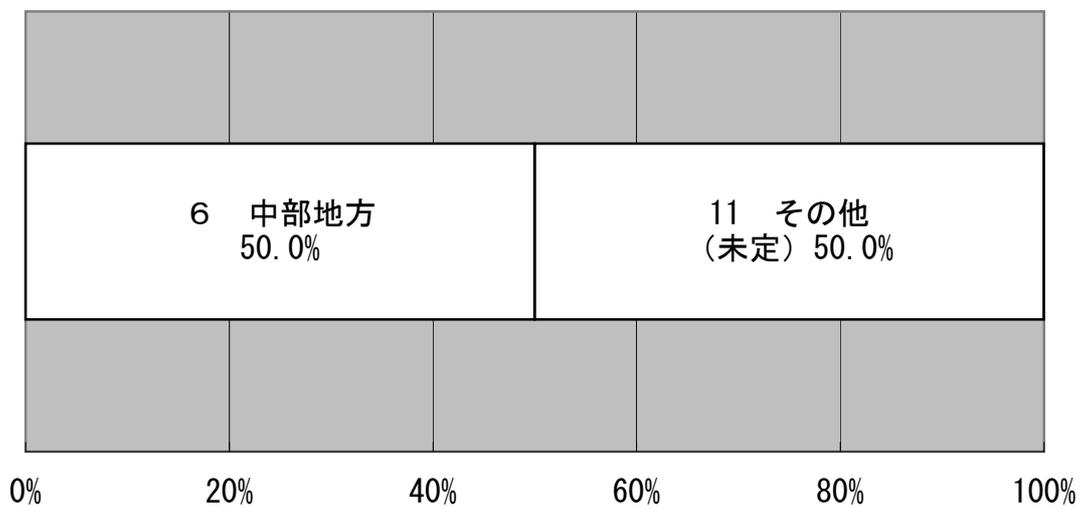
問3 新大学への編入希望	回答数	割合
1 編入を希望する	32	71.1%
2 進路の候補の一つとして考える	8	17.8%
3 他大学への編入学を希望する	2	4.4%
4 わからない	2	4.4%
5 その他	1	2.2%
計	45	100.0%



問4 各専攻への関心	回答数	割合
1 アート&ルーツ専攻	5	12.5%
2 ビジュアルアート専攻	12	30.0%
3 ものづくりデザイン専攻	13	32.5%
4 コミュニケーションデザイン専攻	8	20.0%
5 景観デザイン専攻	1	2.5%
6 わからない	1	2.5%
計	40	100.0%



問5 他大学編入希望者の進路	回答数	割合
1 秋田市内	0	0.0%
2 秋田県内（秋田市を除く）	0	0.0%
3 東北地方（秋田県を除く）	0	0.0%
4 北海道地方	0	0.0%
5 関東地方	0	0.0%
6 中部地方	1	50.0%
7 近畿地方	0	0.0%
8 中国地方	0	0.0%
9 四国地方	0	0.0%
10 九州地方	0	0.0%
11 その他	1	50.0%
計	2	100.0%



## 問6 4大化についての意見等(自由記述)

### 3年次編入の定員増加に関する要望

- ・ やっと大学側からも話がでてうれしい。4大化にあたって定員が非常に少なくなるが、改築などでもう少しだけでも多くしてほしい。
- ・ 10人と言わず、初年度は100人でお願いします。
- ・ 絶対になって欲しいし、できるだけ多くの人を編入できるようにしてほしい。
- ・ 3年次編入の人数が少なすぎるのではないかと思います。
- ・ 編入の人数増やしてください。
- ・ 10人の定員は少なすぎはしないか。
- ・ 3年次編入の定員をもっと増やしてほしい。

### 3年次編入の情報提供に関する要望

- ・ 学費などについても、できるだけ早く知りたいです。
- ・ 現在の美短と違い、特色が分かりにくい。工芸ができる、工芸に力を入れている、ではなく、色々学べるもののうちの1つに工芸があるという印象です。あくまでも、プリント1枚読んだだけの意見ですが。日本画が増えたのは良かったです。
- ・ 編入試験は、どのようなものになるのですか。
- ・ 周囲の人に4大化したら編入するか、私たちの扱いはどうなるのかなどと聞かれる機会が多いのですが、私たちに全然情報が入ってこないの、むしろこちらが聞きたいという風になっています。また、未決定の部分が多いとは思いますが、在学生にもう少し情報をいただきたいです。
- ・ 学費はどのくらいかかりますか。今までと同程度の金額でしょうか。工芸だけを専攻できる学科はないのですか。
- ・ もう少し詳しい情報の開示をして欲しいです。
- ・ 編入試験についてなどの対策を早めに知りたい。
- ・ 編入試験に関する詳細をもう少しちゃんと知りたい。
- ・ 4年制へ編入する場合、試験は卒業制作はどうなるか。定員が少ないので、編入できるか心配。

### 大学の施設に関する要望

- ・ 大学の開いている時間、学生食堂の開いている時間、画材の販売など、もう少し改善していただけるとうれしいです。
- ・ 廊下が寒いです。

### その他

- ・ 今のところ専攻科進学を希望しているが、4年制になるならそっちの方の進学も考えている。
- ・ ぜひ3年次に編入したい。

3年次編入学生用の履修モデル（アーツ&ルーツ専攻）

資料34

…必修科目

履修年次		3年次			4年次			計	
		前期 科目名	後期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名			
共通教育科目	人間と社会					日本文学	2		
	歴史と文化	東北造形史 異文化 コミュニケーション論	2 2		文化人類学	2			
	外国語				英会話 1	1 英会話 2	1		
	情報								
	保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1				
	小計		5	1		3	3	12	
	教育キャリア		地域プロジェクト 演習	1	キャリアデザイン1 情報リテラシー2 プレゼンテーション 演習1	2 1 1	キャリアデザイン2 美術の社会 実践論	2 2	
		小計		1		4	4	0	9
		合計		6	5	7		3	21
	専門科目	総合科目	現代芸術論C (ビジュアルアーツ)	2	現代芸術論A (アーツ&ルーツ、 地域文化計画)	2			
現代芸術論D (コミュニケーション デザイン)			2	現代芸術論B (ものづくり)	2				
導入科目		英語による 現代美術評論 1 写真基礎演習	2 1			工芸演習 1 (教職課程)	2		
美術理論・ 美術史科目					日本彫刻史	2 日本美術史 デザイン史	2 2		
専門基礎科目		日本画基礎演習 彫刻基礎演習	1 1	彫刻素材 基礎演習 現代絵画 基礎演習 塑像表現 2	1 1 2	英語による 現代美術評論 2 油画基礎演習	2 1	イラストレーション 基礎演習 1	
小計		9	8	5	7	29			
専門専攻科目	アーツ&ルーツ 専攻科目	アーツ&ルーツ演習 1	8	アーツ&ルーツ演習 2 アートプロジェクト 演習	6 2	アーツ&ルーツ演習 3	8		
	卒業研究					卒業研究	10		
	小計		8	8	8	10	34		
合計		17	16	13	17	63			
総計		23	21	20	20	84			

卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から8単位以上、  
「歴史と文化」から6単位以上、「外国語」から6単位以上を含め、計24単位以上  
【キャリア教育科目】10単位以上  
【専門共通科目】総合科目から10単位以上、導入科目から12単位以上、  
美術理論・美術史科目から12単位以上、専門基礎科目から  
14単位以上を含め、計56単位以上  
【専門専攻科目】34単位以上  
【合計】124単位以上

※ 卒業に必要な単位のうち、この履修モデルに示されていないものについては、編入前の大学等における既修得単位を個別に認定することで満たすことを想定している。

3年次編入学生用の履修モデル（ビジュアルアーツ専攻）

…必修科目

履修年次		3年次				4年次		計			
		前期		後期		前期	後期				
区分		科目名		科目名		科目名	科目名				
共通教育科目	教養科目	人間と社会					日本文学	2			
		歴史と文化	異文化コミュニケーション論	2		東北造形史 文化人類学	2 2				
		外国語				英会話 1	1	英会話 2	1		
		情報									
		保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1					
		小計		3		1		5		3	12
	キャリア教育科目		地域プロジェクト演習	1	キャリアデザイン 1 情報リテラシー 2 プレゼンテーション演習 1	2 1 1	キャリアデザイン 2 美術の社会実践論	2 2			
		小計		1		4		4		0	9
		合計		4		5		9		3	21
	専門科目	専門共通科目	総合科目	現代芸術論 C (ビジュアルアーツ) 現代芸術論 D (コミュニケーションデザイン)	2 2	現代芸術論 A (アーツ&クルー、地域文化計画) 現代芸術論 B (ものづくり)	2 2				
			導入科目	英語による現代美術評論 1 写真基礎演習	2 1				工芸演習 1 (教職課程)	2	
		美術理論・美術史科目						日本美術史 デザイン史	2 2		
専門基礎科目		油画基礎演習	1	現代絵画基礎演習 イラストレーション基礎演習 彫刻素材基礎演習 メディアアート基礎演習	1 1 1 2	日本画基礎演習 英語による現代美術評論 2	1 2	イラストレーション基礎演習 メディアアート基礎演習	1 2		
小計			8		9		3		9	29	
専門専攻科目		ビジュアルアーツ専攻科目	ビジュアルアーツ演習 1	8	ビジュアルアーツ演習 2 古美術研究	8 2	ビジュアルアーツ演習 3	6			
		卒業研究							卒業研究	10	
	小計		8		10		6		10	34	
合計		16		19		9		19	63		
総計		20		24		18		22	84		

- 卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から8単位以上、  
「歴史と文化」から6単位以上、「外国語」から6単位以上を含め、計24単位以上  
【キャリア教育科目】10単位以上  
【専門共通科目】総合科目から10単位以上、導入科目から12単位以上、  
美術理論・美術史科目から12単位以上、専門基礎科目から14単位以上を含め、計56単位以上  
【専門専攻科目】34単位以上  
【合計】124単位以上

※ 卒業に必要な単位のうち、この履修モデルに示されていないものについては、編入前の大学等における既修得単位を個別に認定することで満たすことを想定している。

3年次編入学生用の履修モデル（ものづくりデザイン専攻）

…必修科目

履修年次		3年次			4年次			計	
		前期		後期	前期		後期		
区分		科目名		科目名	科目名		科目名		
共通教育科目	人間と社会		日本文学	2					
	歴史と文化	東北造形史 異文化 コミュニケーション論	2		文化人類学	2			
	外国語				英会話 1	1	英会話 2	1	
	情報								
	保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1				
	小計		5		3	3		1	
キャリア教育科目		地域プロジェクト演習	1	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2		
				情報リテラシー 2	1	美術の社会 実践論	2		
				プレゼンテーション演習 1	1				
小計		1		4	4		0		
合計			6	7	7		1	21	
専門科目	総合科目	現代芸術論 C (ビジュアルアーツ) 現代芸術論 D (コミュニケーションデザイン)	2 2	現代芸術論 A (アーツ&ルーツ、 地域文化計画) 現代芸術論 B (ものづくり) 現代芸術演習 A 2 (景観デザイン)	2 2 1				
	導入科目	英語による 現代美術評論 1	2						
	美術理論・ 美術史科目				近代装飾 デザイン史	2	日本美術史 デザイン史 近代デザイン史 特講	2 2 2	
	専門基礎科目	色彩演習	1	商品計画演習	1	DTPデザイン演習 ものづくり 製図演習 英語による 現代美術評論 2	1 1 2	地域産業と デザイン 知的財産と運用	2 2
	小計		7	6	6	6		10	
専門専攻科目	ものづくりデザイン	地域産業演習 プロダクトデザイン 演習 プレゼンテーション 演習 2 ものづくり デザイン演習 1 ものづくり デザイン演習 1 2D・3D CAD演習	1 1 1 3 3 1	ものづくり デザイン演習 2 ものづくり デザイン演習 2	4 4	ものづくり デザイン演習 3	6		
	卒業研究							卒業研究	10
	小計		10	8	6			10	
	合計		17	14	12			20	
総計			23	21	19		21	84	

卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から8単位以上、  
「歴史と文化」から6単位以上、「外国語」から6単位以上を含め、計24単位以上

【キャリア教育科目】10単位以上

【専門共通科目】総合科目から10単位以上、導入科目から12単位以上、  
美術理論・美術史科目から12単位以上、専門基礎科目から  
14単位以上を含め、計56単位以上

【専門専攻科目】34単位以上

【合計】124単位以上

※ 卒業に必要な単位のうち、この履修モデルに示されていないものについては、編入前の大学等における既修得単位を個別に認定することで満たすことを想定している。

3年次編入学生用の履修モデル（コミュニケーションデザイン専攻）

…必修科目

履修年次		3年次				4年次				計	
		前期		後期		前期		後期			
区分		科目名		科目名		科目名		科目名			
共通教育科目	教養科目	人間と社会				環境と生態	2				
		歴史と文化	異文化コミュニケーション論	2		文化人類学	2				
		外国語				東北造形史	2				
		情報				英会話 1	1	英会話 2	1		
		保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1					
		小計		3		1		7		1	
	キャリア科目	地域プロジェクト演習	1	キャリアデザイン 1	2	キャリアデザイン 2	2				
				情報リテラシー 2	1	美術の社会実践論	2				
	小計		1		3		4			0	
	合計			4		4		11		1	20
	専門科目	専門共通科目	総合科目	現代芸術論 C (ビジュアルアーツ) 現代芸術論 D (コミュニケーションデザイン)	2 2	現代芸術論 A (アーツ&ルーツ、地域文化計画) 現代芸術論 B (ものづくり)	2 2				
			導入科目	コンピュータ表現基礎 英語による現代美術評論 1 図学・製図演習	1 2 2	コンピュータ表現演習 デザイン基礎演習	1 2	写真基礎演習	1		
美術理論・美術史科目						近代装飾デザイン史	2	近代デザイン史演習 日本美術史 デザイン史	2 2 2		
専門基礎科目					ブックデザイン	1	英語による現代美術評論 2 DTPデザイン演習	2 1	商品計画演習 ウェブデザイン基礎演習 地域産業とデザイン デザインサーベイ	1 1 2 1	
小計			9		8		6		11	34	
専門専攻科目		コミュニケーションデザイン専攻科目	コミュニケーションデザイン論 コミュニケーションデザイン演習 1 A コミュニケーションデザイン演習 1 B コミュニケーションデザイン演習 1 C ウェブデザイン論 映像デザイン演習 3D・CG表現演習 1	2 2 2 2 2 1 1	コミュニケーションデザイン演習 1 D コミュニケーションデザイン演習 1 E コミュニケーションデザイン演習 1 F 3D・CG表現演習 2	2 2 2 1	コミュニケーションデザイン 2	5			
		卒業研究					卒業研究	10			
		小計		12		7		5		10	34
		合計		21		15		11		21	68
総計			25		19		22		22	88	

- 卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から8単位以上、  
「歴史と文化」から6単位以上、「外国語」から6単位以上を含め、計24単位以上  
【キャリア教育科目】10単位以上  
【専門共通科目】総合科目から10単位以上、導入科目から12単位以上、  
美術理論・美術史科目から12単位以上、専門基礎科目から  
14単位以上を含め、計56単位以上  
【専門専攻科目】34単位以上  
【合計】124単位以上

※ 卒業に必要な単位のうち、この履修モデルに示されていないものについては、編入前の大学等における既修得単位を個別に認定することで満たすことを想定している。

3年次編入学生用の履修モデル（景観デザイン専攻）

…必修科目

履修年次		3年次				4年次				計
		前期		後期		前期		後期		
区分		科目名		科目名		科目名		科目名		
共通教育科目	人間と社会					環境と生態	2			
	歴史と文化	異文化 コミュニケーション論	2			文化人類学 東北造形史	2 2			
	外国語					英会話 1	1	英会話 2	1	
	情報									
	保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1					
	小計		3		1		7		1	12
キャリア教育科目		地域プロジェクト 演習	1	キャリアデザイン 1 情報リテラシー 2	2	キャリアデザイン 2 美術の社会 実践論	2 2			
	小計		1	3		4		0	8	
合計			4	4		11		1	20	
専門科目	総合科目	現代芸術論 C (ビジュアルアーツ) 現代芸術論 D (コミュニケーション デザイン)	2 2	現代芸術論 A (アーツ&ルーツ、 地域文化計画) 現代芸術論 B (ものづくり)	2 2					
	導入科目	英語による 現代美術評論 1 図学・製図演習	2 2	コンピュータ表現 演習 デザイン基礎演習	1 2					
	美術理論・ 美術史科目					日本建築史 1	2	日本建築史 2 日本美術史 デザイン史	2 2 2	
	専門基礎科目			デザインワークショップ 演習 デザインサーベイ	1 1	英語による 現代美術評論 2 ウェアデザイン論	2 2	地域産業と デザイン 知的財産と運用 ウェアデザイン 基礎演習	2 2 1	
	小計		8	9		6		11	34	
専門専攻科目	景観デザイン専攻	景観デザイン 演習 1 景観デザイン論 文化行政学 都市デザイン論 CAD演習 1 (建築)	4 2 2 2 2	CAD演習 2 (景観) 景観デザイン 演習 2	2 5	景観デザイン 演習 3	5			
	卒業研究							卒業研究	10	
	小計		12	7		5		10	34	
合計			20	16		11		21	68	
総計			24	20		22		22	88	

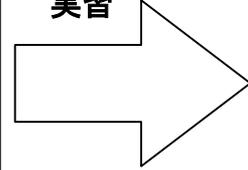
- 卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から 8 単位以上、  
「歴史と文化」から 6 単位以上、「外国語」から 6 単位以上を含め、計 24 単位以上  
【キャリア教育科目】 10 単位以上  
【専門共通科目】 総合科目から 10 単位以上、導入科目から 12 単位以上、  
美術理論・美術史科目から 12 単位以上、専門基礎科目から  
14 単位以上を含め、計 56 単位以上  
【専門専攻科目】 34 単位以上  
【合計】 124 単位以上

※ 卒業に必要な単位のうち、この履修モデルに示されていないものについては、編入前の大学等における既修得単位を個別に認定することで満たすことを想定している。

## 1 教育課程内の取組(キャリア教育科目)

- 【講義】 キャリアデザイン1・2、美術の社会実践論、起業論
- 【演習】 情報リテラシー1・2、日本語表現演習、プレゼンテーション演習1、地域プロジェクト演習
- 【実習】 学外実習(インターンシップ)

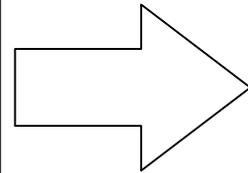
講義・演習・  
実習



## 2 教育課程外の取組

- 【定期開催、年12回程度】  
進路ガイダンス(自己分析、ポートフォリオセミナー、先輩に聞く現場論、保護者向けガイダンス等)
- 【随時開催】  
個別面談、模擬面接、求人票公開、企業訪問

企画・実施



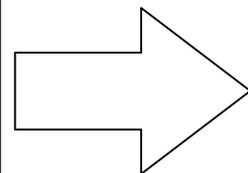
## 3 適切な支援体制の整備

就職関連  
委員会

学生生活  
関連委員会

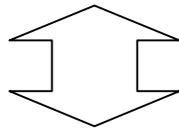
教務関連  
委員会

組織的支援



【連携】

【情報共有】

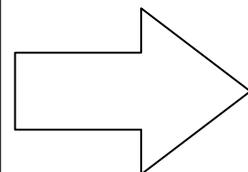


学生相談室《専門スタッフ》

### 支援組織の各種取組

- 【卒業生の経験談】
- 【複合業務のパネルディスカッション】
- 【第一線のデザイナー等による講演会】
- 【就職ブログの開設】

各種取組支援



学生の社会的・職業的自立促進

秋田公立美術大学教員定年規程（案）

平成25年〇月〇日  
大学規程第〇号

（趣旨）

第1条 この規程は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第8条第1項の規定に基づき、秋田公立美術大学（以下「本学」という。）の教授、准教授、講師および助教（以下「教員」という。）の定年等に関し必要な事項を定めるものとする。

（定年）

第2条 本学の教員の定年は、65歳とする。ただし、市長が特別の事情があると認めるときはこの限りではない。

（定年による退職）

第3条 本学の教員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

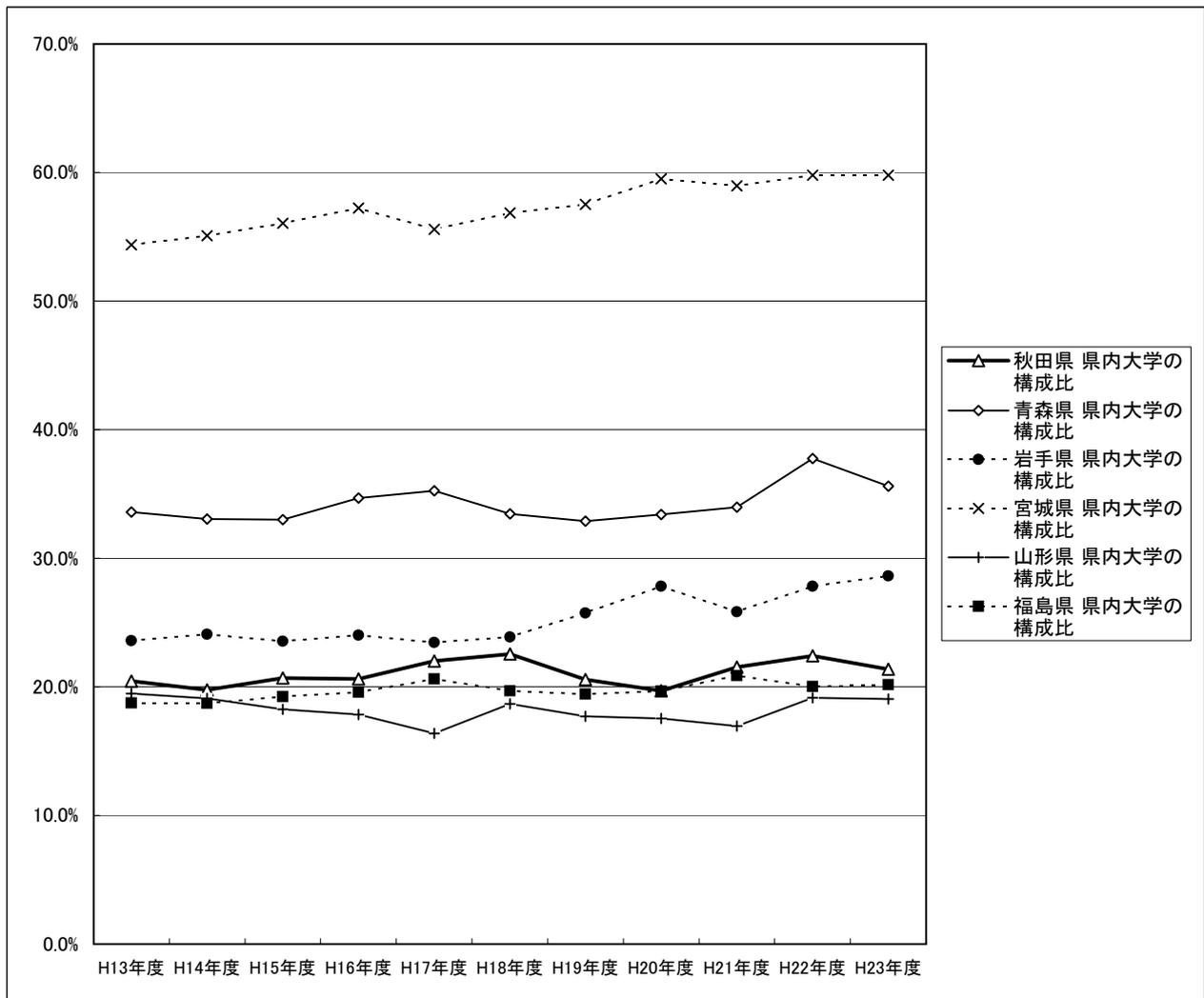
附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の日に在職する教員で、同日から起算して4年以内に定年となる者の定年は、学年進行完成年度（本学の開設後、最初に学年進行が終了する年度をいう。）の末日におけるその者の年齢とする。

○東北各県内高校から同県内大学への進学者数およびその構成比の推移

資料37

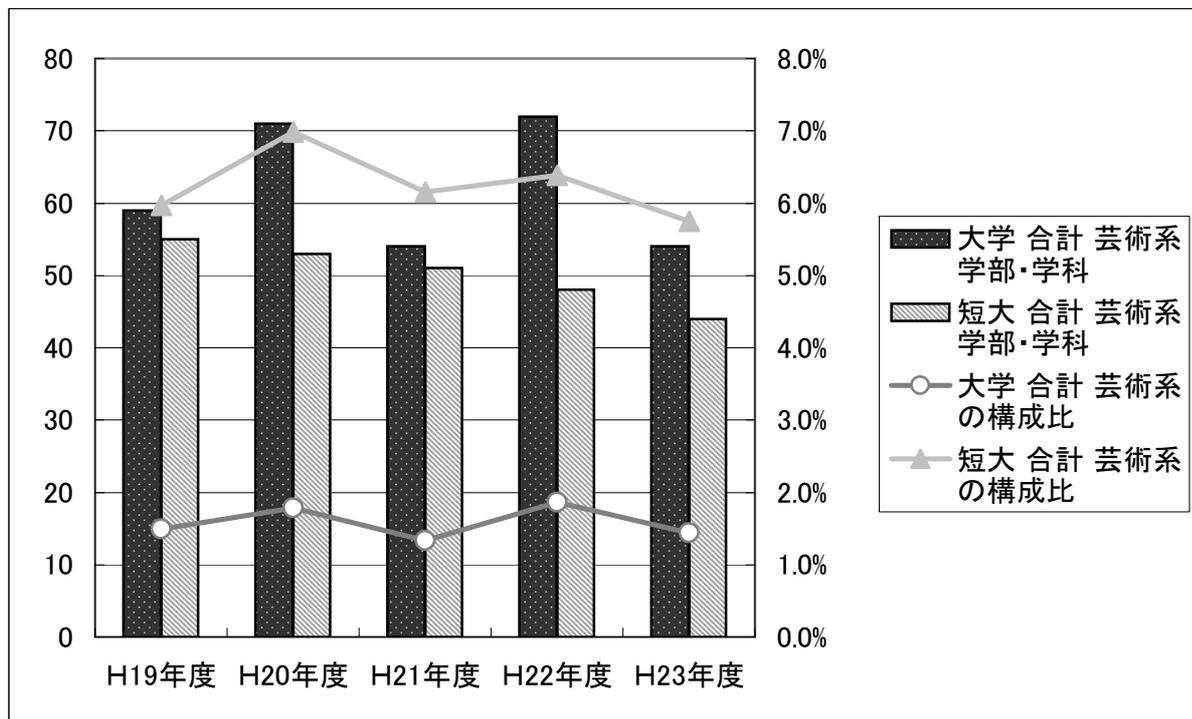
		H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
秋田県	県内大学	848	802	876	830	914	920	835	808	884	935	854
	合計	4,148	4,060	4,233	4,024	4,154	4,078	4,059	4,104	4,106	4,171	3,998
	県内大学の構成比	20.4%	19.8%	20.7%	20.6%	22.0%	22.6%	20.6%	19.7%	21.5%	22.4%	21.4%
青森県	県内大学	1,759	1,719	1,740	1,858	1,914	1,753	1,748	1,783	1,767	2,003	1,802
	合計	5,237	5,201	5,274	5,357	5,429	5,240	5,316	5,338	5,203	5,305	5,061
	県内大学の構成比	33.6%	33.1%	33.0%	34.7%	35.3%	33.5%	32.9%	33.4%	34.0%	37.8%	35.6%
岩手県	県内大学	1,165	1,144	1,127	1,126	1,109	1,151	1,235	1,337	1,242	1,357	1,375
	合計	4,939	4,750	4,785	4,687	4,730	4,820	4,798	4,804	4,806	4,878	4,801
	県内大学の構成比	23.6%	24.1%	23.6%	24.0%	23.4%	23.9%	25.7%	27.8%	25.8%	27.8%	28.6%
宮城県	県内大学	5,359	5,534	5,698	5,829	5,658	5,862	6,087	6,289	6,082	6,414	5,977
	合計	9,858	10,048	10,167	10,183	10,178	10,311	10,584	10,569	10,316	10,728	9,998
	県内大学の構成比	54.4%	55.1%	56.0%	57.2%	55.6%	56.9%	57.5%	59.5%	59.0%	59.8%	59.8%
山形県	県内大学	896	902	896	848	808	927	911	879	822	937	926
	合計	4,600	4,720	4,911	4,754	4,932	4,962	5,145	5,008	4,848	4,892	4,857
	県内大学の構成比	19.5%	19.1%	18.2%	17.8%	16.4%	18.7%	17.7%	17.6%	17.0%	19.2%	19.1%
福島県	県内大学	1,542	1,517	1,618	1,622	1,786	1,673	1,667	1,644	1,724	1,722	1,622
	合計	8,228	8,100	8,408	8,282	8,663	8,492	8,576	8,357	8,255	8,596	8,043
	県内大学の構成比	18.7%	18.7%	19.2%	19.6%	20.6%	19.7%	19.4%	19.7%	20.9%	20.0%	20.2%



※ 文部科学省「学校基本調査」を基に作成

## ○秋田県内高校(全日制課程)出身者の進学状況(学部学科別)

			H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
大学	当年度卒	芸術系学部・学科	58	68	48	70	52
		全学部・学科	3,658	3,675	3,725	3,628	3,475
		芸術系の構成比	1.6%	1.9%	1.3%	1.9%	1.5%
	過年度卒	芸術系学部・学科	1	3	6	2	2
		全学部・学科	302	300	329	240	288
		芸術系の構成比	0.3%	1.0%	1.8%	0.8%	0.7%
	合計	芸術系学部・学科	59	71	54	72	54
		全学部・学科	3960	3975	4054	3868	3763
		芸術系の構成比	1.5%	1.8%	1.3%	1.9%	1.4%
短大	当年度卒	芸術系学部・学科	54	53	51	48	42
		全学部・学科	918	755	824	751	757
		芸術系の構成比	5.9%	7.0%	6.2%	6.4%	5.5%
	過年度卒	芸術系学部・学科	1	0	0	0	2
		全学部・学科	4	4	5	1	9
		芸術系の構成比	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
	合計	芸術系学部・学科	55	53	51	48	44
		全学部・学科	922	759	829	752	766
		芸術系の構成比	6.0%	7.0%	6.2%	6.4%	5.7%

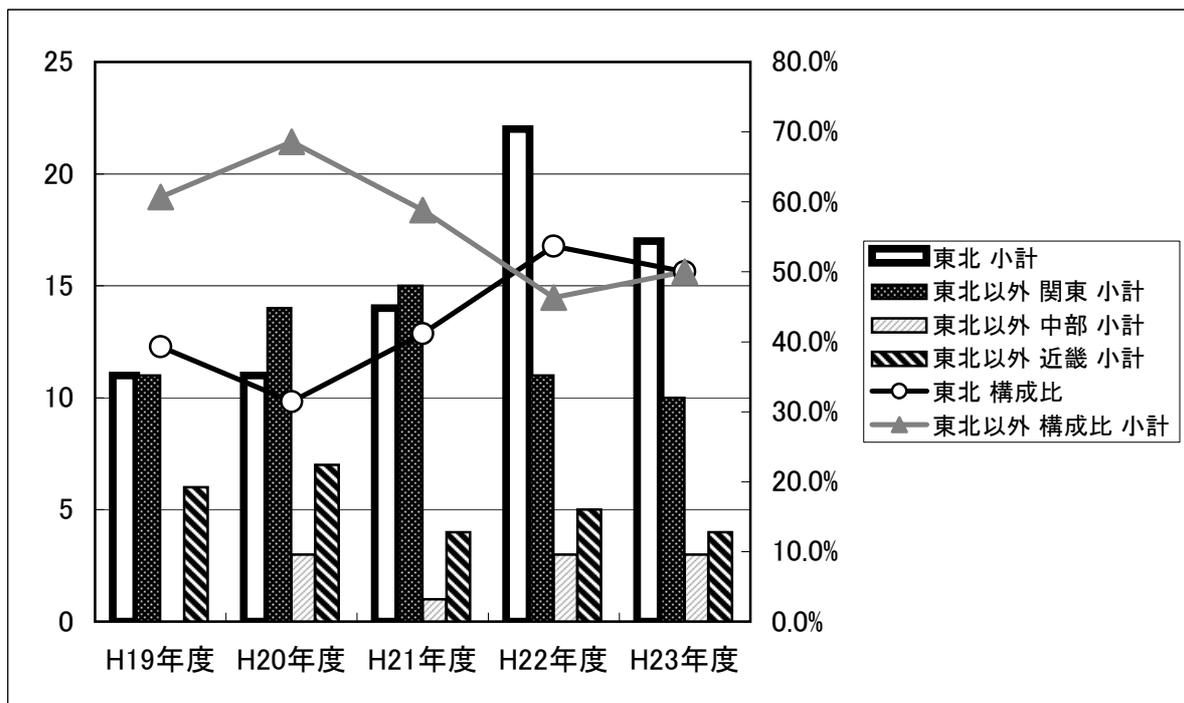


※ 秋田県教育庁「秋田県高等学校卒業者の進路状況調査」を基に作成

○秋田県内高校から芸術系大学への進学者数の推移

資料39

		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	
東北	東北芸術工科大学	11	11	14	22	17	
	小計	11	11	14	22	17	
	構成比	39.3%	31.4%	41.2%	53.7%	50.0%	
東北以外	関東	文星芸術大学	1	0	2	1	1
		東京芸術大学	1	0	0	0	1
		多摩美術大学	0	1	0	0	1
		東京工芸大学	6	11	7	5	5
		東京造形大学	0	1	0	1	0
		武蔵野美術大学	2	1	2	2	1
		女子美術大学	1	0	2	1	1
		横浜美術大学	—	—	2	1	0
		小計	11	14	15	11	10
		中部	長岡造形大学	0	2	1	0
	静岡文化芸術大学		—	—	—	2	1
	愛知県立芸術大学		0	0	0	1	0
	名古屋造形大学		0	1	0	0	1
	小計		0	3	1	3	3
	近畿	成安造形大学	0	1	0	1	0
		京都嵯峨芸術大学	0	1	0	0	0
		京都精華大学	1	2	1	1	2
		京都造形芸術大学	1	1	2	0	1
		大阪芸術大学	4	2	1	2	1
		神戸芸術工科大学	0	0	0	1	0
		宝塚造形芸術大学	0	0	0	0	0
		小計	6	7	4	5	4
	合計		17	24	20	19	17
	構成比		60.7%	68.6%	58.8%	46.3%	50.0%
総計		28	35	34	41	34	



※ 秋田県教育庁「秋田県高等学校卒業者の進路状況調査」を基に作成

## ○専攻別専任教員一覧表

H25はH25. 4. 1現在の年齢

H29はH29. 3. 31現在の年齢

専攻等		専門分野	職・氏名	学位	H25	H29	備考
Ⅰ アーツ& ルーツ専攻	1	石彫・彫刻	准教授 芝山昌也	博士（芸術）	40	44	
	2	彫刻	准教授 皆川嘉博	修士（美術）	44	48	
	3	現代日本画	准教授 山本太郎	学士（芸術学）	38	42	
	4	文化人類学	講師 石倉敏明	修士（総合政策学） 博士単位取得後退学	38	42	
Ⅱ ビジュアル アーツ専攻	5	立体造形	教授 島屋純晴	芸術学修士	57	61	
	6	インスタレーション	教授 岩井成昭	修士（芸術学）	50	54	
	7	現代絵画（油画）・ イラストレーション	教授 小田英之	芸術学士 博士単位取得後退学	56	60	
	8	現代絵画（油画）	准教授 大谷有花	芸術学修士	35	39	
	9	テキスタイルデザイン	准教授 長沢桂一	修士（芸術）	43	47	
	10	パフォーマンス、メ ディアアート	准教授 高嶺格	学士（美術）	45	49	
	11	デジタルメディア・ アート	助教 阿部由布子	修士（教育学）	34	38	
Ⅲ ものづくり デザイン専攻	12	プロダクトデザイン	教授 今中隆介	修士（美術）	47	51	
	13	家具デザイン	教授 松本研一	芸術学士	62	66	
	14	ガラス	教授 小牟禮尊人	芸術学士	50	54	
	15	彫金	准教授 安藤康裕	修士（美術）	48	52	
	16	木工	准教授 山岡惇	修士（教育学）	44	48	
	17	漆	准教授 熊谷晃	修士（美術）	41	45	
	18	陶磁	助教 安藤郁子	修士（教育学）	43	47	
	19	染	助教 森香織	修士（美術）	39	43	

H25はH25. 4. 1現在の年齢

H29はH29. 3. 31現在の年齢

専攻等		専門分野	職・氏名	学位	H25	H29	備考	
IV コミュニケーションデザイン専攻	20	タイポグラフィー	教授 官能 右 泰	芸術学士	58	62		
	21	構成デザイン	准教授 金 孝 卿	デザイン学博士	53	57		
	22	ウェブ・デザイン	准教授 ベ・ジンソク	博士（芸術学）	41	45		
	23	編集デザイン	准教授 水 田 圭	修士（美術）	44	48		
	24	パッケージ・デザイン	准教授 孔 鎮 烈	修士（デザイン学）	44	48		
	25	広告デザイン	准教授 坂 本 憲 信	芸術学士	51	55		
V 景観デザイン専攻	26	商品計画	教授 渡 邊 有 一	学士（造形）	64	68		
	27	景観デザイン	准教授 山 内 貴 博	博士（美術）	42	46		
	28	建築計画	准教授 小 杉 栄次郎	工学学士	44	48		
	29	デザインワークショップ	助教 菅 原 香 織	芸術学士	50	54		
VI 美術教育センター	美学・美術史・一般教養系	30	美学・デザイン史	教授 天 貝 義 教	博士（学術）	54	58	
		31	建築史	教授 澤 田 享	博士（工学）	56	60	
		32	情報リテラシー、プログラミング	教授 野 村 松 信	工学修士	53	57	
		33	東洋美術史	准教授 井 上 豪	文学修士 博士単位取得後退学	45	49	
		34	英語コミュニケーション（文芸）	准教授 大八木 敦 彦	文学修士 博士単位取得後退学	52	56	
	教員養成系	35	道德教育	教授 毛 内 嘉 威	博士（学術）	48	52	
		36	博物館学、日本美術史	教授 志 邨 匠 子	博士（文学）	46	50	
		37	美術教育（絵画）	教授 鈴 木 司	芸術学修士	55	59	
		38	教育学	准教授 池 亀 直 子	博士（社会科学）	41	45	
		39	美術科教育・工芸科教育	准教授 尾 澤 勇	教育学修士	49	53	
VII 社会貢献センター	40	地域産業振興	教授 五十嵐 潤	芸術修士	61	65		
		商品計画	教授 渡 邊 有 一		64	68	兼務	
		英語コミュニケーション（文芸）	准教授 大八木 敦 彦		52	56	兼務	

※各専攻等内の順は、職・学位順

美術学部美術学科の履修モデル

○美術学部美術学科アーツ&ルーツ専攻（入学当初からこの専攻に進むことを想定している学生）の履修モデル

…必修科目

…履修モデル上、各専攻共通で選択している科目

…その専攻を目指している場合、取得するのが望ましい科目

履修年次		1年次		2年次		3年次		4年次		計									
		前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名										
共通教育科目	人間と社会	哲学	2	国際関係論	2														
		東北造形史	2	文化人類学	2	文化人類学特論	2												
	歴史と文化	東北生活文化論	2	食文化論	2														
		総合英語 1	1	総合英語 2	1	総合英語 3	1	総合英語 4	1										
	外国語	英会話 1	1	英会話 2	1														
				プログラミング入門	2														
	情報																		
	保健体育	スポーツと健康 1	1	スポーツと健康 2	1														
	小計		9		3		9		1		2		0		0		0	24	
	キャリア教育科目	情報リテラシー 1	1	情報リテラシー 2	1	キャリアデザイン 1	2	地域プロジェクト演習	1										
美術の社会実践論		2				アプレーション演習 1	1	キャリアデザイン 2	2										
小計			3		1		0		3		3		0		0		0	10	
合計			12		4		9		4		5		0		0		0	34	
専門共通科目	総合科目			現代芸術論 A (7-7&8-7、 景観デザイン) 現代芸術論 B (ものづくり デザイン)	2	現代芸術論 C (ビジュアル7-7) 現代芸術論 D (コミュニケーション デザイン)	2	現代芸術演習 A 1 (7-7&8-7) 現代芸術演習 A 2 (景観デザイン)	2	1									
		色彩論	2	デザインスケッチ演習 1	1														
	導入科目	素描表現	1	絵画材料演習 (又はコンピュータ表現演習)	1														
		写真基礎演習 (又はコンピュータ表現基礎)	(1)	工芸演習 1 (教職課程)	2														
		塑像表現 1 (又は図学・製図演習)	2	工芸演習 2 (教職課程)	2														
		英語による現代美術評論 1	2	英語による現代美術評論 2	(2)														
		美術理論・美術史	2	日本美術史	2	工芸概論	2	デザイン史	2	日本彫刻史	2								
	専門基礎科目	東洋美術史	2	西洋美術史	2			近代絵画史	2										
						英語による現代美術評論 2	2	塑像表現 2	2	インスタレーション基礎演習	1								
						油画基礎演習	1	彫刻素材基礎演習	1										
					構成論	2	現代絵画基礎演習	1											
					素材と表現	2	デザインサーベイ	1											
彫刻基礎演習	1	彫刻基礎演習	1	デザインワークショップ演習	1														
日本画基礎演習	1																		
小計		12		14		15		12		2		1		0		0	56		
専門専攻科目	アーツ&ルーツ専攻科目							7-7&8-7演習 1	8	7-7&8-7演習 2	6	7-7&8-7演習 3	8						
	卒業研究									7-7プロジェクト演習	2								
	小計		0		0		0		8		8		8				10	34	
合計			12		14		15		12		10		9		8		10	90	
総計			24		18		24		16		15		9		8		10	124	

卒業要件単位数：【教養科目】「人間と社会」「情報」「保健体育」から8単位以上、「歴史と文化」から6単位以上、「外国語」から6単位以上を含め、計24単位以上  
 【キャリア教育科目】10単位以上  
 【専門共通科目】総合科目から10単位以上、導入科目から12単位以上、美術理論・美術史科目から12単位以上、専門基礎科目から14単位以上を含め、計56単位以上  
 【専門専攻科目】34単位以上  
 【合計】124単位以上

授業科目名	文化人類学	担当教員名	石倉敏明																														
授業科目区分	教養科目－歴史と文化																																
履修区分	必修	授業形態	講義																														
配当年次・学期	2年次前期	単位数	2単位																														
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 人類学は地球上のさまざまな民族文化を理解するだけでなく、人類の心の普遍性を問い、それを核とするユニークな表現の多様性を学ぶ方法である。本講義ではこの方法の習得を目標とする。また、芸術を軸に人間の学の根底からの再編成を目指す「芸術人類学」の成果を積極的に取り入れ、諸々の文化の根源にある神話や祭り、経済活動や労働、エコロジーや時間／空間認識といった問題を、「芸術とは何か」という主題とともに探究する。																																	
<b>授業計画</b>  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">第1回 芸術の発生について</td> <td>「認知的ビックバン」と旧石器時代の芸術</td> </tr> <tr> <td>第2回 美と超越性の起源</td> <td>脳科学に見る宗教と芸術の交錯</td> </tr> <tr> <td>第3回 記憶と表現 1</td> <td>視覚表現からグラフィック芸術へ</td> </tr> <tr> <td>第4回 記憶と表現 2</td> <td>諸民族の暦と時間の表現</td> </tr> <tr> <td>第5回 神話学入門 1</td> <td>物語と音楽</td> </tr> <tr> <td>第6回 神話学入門 2</td> <td>食べ物の起源とエネルギーの循環</td> </tr> <tr> <td>第7回 神話学入門 3</td> <td>「具体の科学」としての芸術</td> </tr> <tr> <td>第8回 神話学入門 4</td> <td>人間と動物の結婚</td> </tr> <tr> <td>第9回 神話学入門 5</td> <td>エコロジーとしての神話学</td> </tr> <tr> <td>第10回 贈与としての芸術 1</td> <td>「贈与」と「交換」の違い</td> </tr> <tr> <td>第11回 贈与としての芸術 2</td> <td>流動するもの＝貨幣について</td> </tr> <tr> <td>第12回 贈与としての芸術 3</td> <td>芸術における労働の問題</td> </tr> <tr> <td>第13回 古代性とアヴァンギャルド 1</td> <td>モダン・アートとプライマル・アート</td> </tr> <tr> <td>第14回 古代性とアヴァンギャルド 2</td> <td>制度外の芸術について</td> </tr> <tr> <td>第15回 過去と未来をつなぐ営み</td> <td>全体のまとめ</td> </tr> </table>				第1回 芸術の発生について	「認知的ビックバン」と旧石器時代の芸術	第2回 美と超越性の起源	脳科学に見る宗教と芸術の交錯	第3回 記憶と表現 1	視覚表現からグラフィック芸術へ	第4回 記憶と表現 2	諸民族の暦と時間の表現	第5回 神話学入門 1	物語と音楽	第6回 神話学入門 2	食べ物の起源とエネルギーの循環	第7回 神話学入門 3	「具体の科学」としての芸術	第8回 神話学入門 4	人間と動物の結婚	第9回 神話学入門 5	エコロジーとしての神話学	第10回 贈与としての芸術 1	「贈与」と「交換」の違い	第11回 贈与としての芸術 2	流動するもの＝貨幣について	第12回 贈与としての芸術 3	芸術における労働の問題	第13回 古代性とアヴァンギャルド 1	モダン・アートとプライマル・アート	第14回 古代性とアヴァンギャルド 2	制度外の芸術について	第15回 過去と未来をつなぐ営み	全体のまとめ
第1回 芸術の発生について	「認知的ビックバン」と旧石器時代の芸術																																
第2回 美と超越性の起源	脳科学に見る宗教と芸術の交錯																																
第3回 記憶と表現 1	視覚表現からグラフィック芸術へ																																
第4回 記憶と表現 2	諸民族の暦と時間の表現																																
第5回 神話学入門 1	物語と音楽																																
第6回 神話学入門 2	食べ物の起源とエネルギーの循環																																
第7回 神話学入門 3	「具体の科学」としての芸術																																
第8回 神話学入門 4	人間と動物の結婚																																
第9回 神話学入門 5	エコロジーとしての神話学																																
第10回 贈与としての芸術 1	「贈与」と「交換」の違い																																
第11回 贈与としての芸術 2	流動するもの＝貨幣について																																
第12回 贈与としての芸術 3	芸術における労働の問題																																
第13回 古代性とアヴァンギャルド 1	モダン・アートとプライマル・アート																																
第14回 古代性とアヴァンギャルド 2	制度外の芸術について																																
第15回 過去と未来をつなぐ営み	全体のまとめ																																
<b>テキスト</b> 各回のテキストは適宜配布する。																																	
<b>参考書・参考資料等</b> 中沢新一『カイエ・ソバージュ』『芸術人類学』、マルセル・モース『贈与論』、クロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』『神話論理』、マーク・シェル『芸術と貨幣』、ルイス・ハイド『ギフト』など。																																	
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 40%    課題の成果（試験、レポート） 60%																																	

授業科目名	東北生活文化論	氏名	石倉敏明																														
授業科目区分	教養科目－歴史と文化																																
履修区分	選択	授業形態	講義																														
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位																														
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 東北地方は世界的に見てもユニークな縄文文化と呼ばれる生活様式の中心的舞台であった。この文化はいまも人々の生活の中にとけ込んでいる。この授業では人類学をはじめ考古学、民俗学、宗教学、神話学、生態学などの横断的な見地から地域の実態を見つめ、環太平洋的に連なるクニの固有性と可能性をさまざまな角度から探究する。また、出羽三山や八幡平等へのフィールド調査をとおして、東北地方に生きる現在の文化を実践的に理解し、未来に向けた新しい価値観を創造することを目的とする。																																	
<b>授業計画</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1回 世界のなかの東北</td> <td style="width: 50%;">環太平洋における縄文文化</td> </tr> <tr> <td>第2回 宇宙の循環と人の暮らし</td> <td>秋田／大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡</td> </tr> <tr> <td>第3回 小盆地宇宙論</td> <td>岩手／遠野物語に見るコスモロジー</td> </tr> <tr> <td>第4回 「山の神」という問題1</td> <td>「生産する自然」と女性性</td> </tr> <tr> <td>第5回 「山の神」という問題1</td> <td>姥様信仰の展開</td> </tr> <tr> <td>第6回 死と再生 1</td> <td>福島／ハヤマ信仰の広がり</td> </tr> <tr> <td>第7回 死と再生 2</td> <td>山形／出羽三山の籠り行（希望者に実習）</td> </tr> <tr> <td>第8回 死と再生 3</td> <td>青森／恐山に見る異界との交流</td> </tr> <tr> <td>第9回 温泉と復活</td> <td>湯治文化と東北</td> </tr> <tr> <td>第10回 東北的アニミズム</td> <td>山形／草木供養塔と本覚思想</td> </tr> <tr> <td>第11回 神話と祭 1</td> <td>秋田／だんぶり長者伝説</td> </tr> <tr> <td>第12回 神話と祭 2</td> <td>秋田／大日堂舞楽の構造</td> </tr> <tr> <td>第13回 神話と祭 3</td> <td>秋田／大日堂舞楽見学（現地調査）</td> </tr> <tr> <td>第14回 東北的アヴェンギャルド</td> <td>青森／棟方志功と民藝運動</td> </tr> <tr> <td>第15回 「東北」から始まる未来</td> <td>3.11 以後の鎮魂と創造</td> </tr> </table>				第1回 世界のなかの東北	環太平洋における縄文文化	第2回 宇宙の循環と人の暮らし	秋田／大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡	第3回 小盆地宇宙論	岩手／遠野物語に見るコスモロジー	第4回 「山の神」という問題1	「生産する自然」と女性性	第5回 「山の神」という問題1	姥様信仰の展開	第6回 死と再生 1	福島／ハヤマ信仰の広がり	第7回 死と再生 2	山形／出羽三山の籠り行（希望者に実習）	第8回 死と再生 3	青森／恐山に見る異界との交流	第9回 温泉と復活	湯治文化と東北	第10回 東北的アニミズム	山形／草木供養塔と本覚思想	第11回 神話と祭 1	秋田／だんぶり長者伝説	第12回 神話と祭 2	秋田／大日堂舞楽の構造	第13回 神話と祭 3	秋田／大日堂舞楽見学（現地調査）	第14回 東北的アヴェンギャルド	青森／棟方志功と民藝運動	第15回 「東北」から始まる未来	3.11 以後の鎮魂と創造
第1回 世界のなかの東北	環太平洋における縄文文化																																
第2回 宇宙の循環と人の暮らし	秋田／大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡																																
第3回 小盆地宇宙論	岩手／遠野物語に見るコスモロジー																																
第4回 「山の神」という問題1	「生産する自然」と女性性																																
第5回 「山の神」という問題1	姥様信仰の展開																																
第6回 死と再生 1	福島／ハヤマ信仰の広がり																																
第7回 死と再生 2	山形／出羽三山の籠り行（希望者に実習）																																
第8回 死と再生 3	青森／恐山に見る異界との交流																																
第9回 温泉と復活	湯治文化と東北																																
第10回 東北的アニミズム	山形／草木供養塔と本覚思想																																
第11回 神話と祭 1	秋田／だんぶり長者伝説																																
第12回 神話と祭 2	秋田／大日堂舞楽の構造																																
第13回 神話と祭 3	秋田／大日堂舞楽見学（現地調査）																																
第14回 東北的アヴェンギャルド	青森／棟方志功と民藝運動																																
第15回 「東北」から始まる未来	3.11 以後の鎮魂と創造																																
<b>テキスト</b> 各回のテキストは適宜配布する。																																	
<b>参考書・参考資料等</b> 柳田國男『遠野物語』、岩崎敏夫『東北民間信仰の研究』、中沢新一『哲学の東北』『芸術人類学』、千歳栄『山の形をした魂』、森繁哉＋入澤美時『東北からの思考』、森繁哉＋合田純人『温泉からの思考』、ネリー・ナウマン『山の神』等。																																	
<b>学修成果の評価方法</b> 学期末レポートまたは試験によって評価をおこなうが、フィールドワーク（出羽三山および八幡平）への積極的な参加も重視する。																																	

授業科目名	日本画基礎演習	担当教員名	山本太郎
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－専門基礎科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次前期	単位数	1単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 基本技法を学びながら小品を製作することで下絵から着色、完成まで、日本画の一連の工程を体験する。基礎的な日本画の技法を学ぶことで自己表現の土台を養う。また、古典的な技法を学ぶことで現代的な技法との類似点や相違点を発見する。			
<b>授業計画</b> 第1回 導入・授業内容と簡単な材料等の説明 第2回 水墨1 運筆 墨の線による表現を学ぶ 第3回 水墨2 ぼかし、滲み、たらしこみ 墨による色の表現を学ぶ 第4回 水墨3 模写 水墨により簡単な古典作品の模写を行う 第5回 水墨4 墨によるスケッチ 第6回 水墨5 小下絵 スケッチを下絵におこす ※この回より小品の製作 第7回 水墨6 骨描（こつがき） 墨による下描き 第8回 着色1 材料の解説と使用法の説明 ※主に胡粉の作り方など 第9回 着色2 実際の作品への着色 第10回 着色3 実際の作品への着色 第11回 着色4 実際の作品への着色 第12回 箔の実習 金箔（もしくは銀箔、銅箔）の技法の解説と実習 第13回 着色5 実際の作品への着色 第14回 着色6 実際の作品への着色 第15回 合評 完成作品の評価とアドバイス			
<b>テキスト</b> 日本画の技法書などのコピーを適宜配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			
<b>学修成果の評価方法</b> 講評の時点での作品の完成度を50点満点で採点し、授業への取り組みを50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。 60点以上（作品点数については、50点満点中30点以上）を単位認定要件とする。			

授業科目名	彫刻基礎演習	担当教員名	芝山昌也
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－専門基礎科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次前期	単位数	1単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>この授業では「自然」をテーマにして抽象表現する石材彫刻の制作を行う。その制作を通じて、カービング（素材を削ること）技術による制作プロセスを知り、その魅力を知る。</p> <p>自然物の形態を深く観る事によって対象物の構造や特徴を探り、観察力や洞察力を養う。その観察で得た成果を抽象表現へと変換し、発想の展開力を学ぶ。そして、自然の素材である石材に各々の「自然」を刻むことで、素材を活かした立体の制作の方法を知り、また加工の制約の多い素材を扱う事によって、立体作品の制約を学び、その制約を活かすという自然の素材を扱う彫刻の発想力を習得する。</p> <p>授業はガイダンスからプランニングを行い、次にデッサンや石膏によるマケットづくりを行う。以降は素材の説明や技術、道具の説明を行った後に、実際にカービングの実技に入り、作品のプレゼンテーション、講評を行う。</p>			
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス（授業日程の説明など）、プランニング。 第2回 構想デッサンの制作 第3回 石膏によるマケット制作 構想デッサン、マケットを講評する。－① 第4回 石彫制作 手道具による面出し。 第5回 石彫制作 手道具による面出し。 第6回 石彫制作 手道具によるあら取り。 第7回 石彫制作 電動工具によるあら取り。 第8回 石彫制作 電動工具によるあら取り。 石彫作品中間講評 ー② 第9回 石彫制作 ダイヤモンド工具による細部制作。 第10回 石彫制作 ダイヤモンド工具による細部制作。 第11回 石彫制作 ダイヤモンド工具による細部制作。 第12回 石彫制作 砥石による機械研磨作業。 第13回 石彫制作 セラミカによる機械研磨作業。 第14回 石彫制作 ラウンド砥石による手研磨作業。 第15回 セッティング作業、石彫作品プレゼンテーションおよび講評 ー③			
<b>テキスト</b> 特になし。			
<b>参考書・参考資料等</b> 石彫関係の作品集を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 講評の時点での作品を①10点②10点③30点の50点満点で採点し、授業への取り組みを50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。 60点以上（作品点数については、50点満点中30点以上）を単位認定要件とする。			

授業科目名	文化人類学特論	氏名	石倉敏明																																													
授業科目区分	教養科目－歴史と文化																																															
履修区分	選択	授業形態	講義																																													
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位																																													
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本講義では、人びとの生活にとって欠かすことのできない「自然との関わり」について考察する。動物や植物といった非人間の生物、山や海といった自然景観、木材や毛皮といった材料、「山の神」等の聖性表現に着目し、文化と自然の二項対立を越える「第三の道」によってこれらを捉え直すことを目指す。また、伝統的な自然思想が護ろうとしてきた、全体性を基盤にした価値観を再考し、特にこれを女性性や母性といった「生命を与えるもの」の立場から理解し、還元主義的な思考に対抗する思考力を養う。																																																
<b>授業計画</b>  <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>自然と女性性について</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>洞窟の内と外</td> <td>旧石器時代の女性スピリット像について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>懐胎と誕生</td> <td>女神信仰の認知科学的基盤</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>母乳と聖性</td> <td>養育者としての大地母神</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>捕食者と被食者</td> <td>宇宙的捕食網のなかの生命</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>女神と動物</td> <td>野生動物の馴致と「女性的なるもの」の力</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>新石器革命</td> <td>定住革命と竈の利用</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>野生種と栽培種</td> <td>農業と生態系</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>母神から父神へ</td> <td>「形而上革命」と男性一神教</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>インドの山の神と女性性</td> <td>「チプロ運動」の背景</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>イヌイットのセドナ神話</td> <td>生命の源流としての海</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>太平洋のハイヌヴェレ神話</td> <td>農耕作物の起源</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>日本の「山の神」神話</td> <td>秋田の事例から</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>近代の女神論</td> <td>ガイア仮説と現代生命論</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>未来の自然へ</td> <td>3.11以後の自然といかに結ばれるか</td> </tr> </table>				第1回	自然と女性性について	オリエンテーション	第2回	洞窟の内と外	旧石器時代の女性スピリット像について	第3回	懐胎と誕生	女神信仰の認知科学的基盤	第4回	母乳と聖性	養育者としての大地母神	第5回	捕食者と被食者	宇宙的捕食網のなかの生命	第6回	女神と動物	野生動物の馴致と「女性的なるもの」の力	第7回	新石器革命	定住革命と竈の利用	第8回	野生種と栽培種	農業と生態系	第9回	母神から父神へ	「形而上革命」と男性一神教	第10回	インドの山の神と女性性	「チプロ運動」の背景	第11回	イヌイットのセドナ神話	生命の源流としての海	第12回	太平洋のハイヌヴェレ神話	農耕作物の起源	第13回	日本の「山の神」神話	秋田の事例から	第14回	近代の女神論	ガイア仮説と現代生命論	第15回	未来の自然へ	3.11以後の自然といかに結ばれるか
第1回	自然と女性性について	オリエンテーション																																														
第2回	洞窟の内と外	旧石器時代の女性スピリット像について																																														
第3回	懐胎と誕生	女神信仰の認知科学的基盤																																														
第4回	母乳と聖性	養育者としての大地母神																																														
第5回	捕食者と被食者	宇宙的捕食網のなかの生命																																														
第6回	女神と動物	野生動物の馴致と「女性的なるもの」の力																																														
第7回	新石器革命	定住革命と竈の利用																																														
第8回	野生種と栽培種	農業と生態系																																														
第9回	母神から父神へ	「形而上革命」と男性一神教																																														
第10回	インドの山の神と女性性	「チプロ運動」の背景																																														
第11回	イヌイットのセドナ神話	生命の源流としての海																																														
第12回	太平洋のハイヌヴェレ神話	農耕作物の起源																																														
第13回	日本の「山の神」神話	秋田の事例から																																														
第14回	近代の女神論	ガイア仮説と現代生命論																																														
第15回	未来の自然へ	3.11以後の自然といかに結ばれるか																																														
<b>テキスト</b> 各回の参照テキストは適宜配布する。																																																
<b>参考書・参考資料等</b> ネリー・ナウマン『山の神』、ヴァンダナ・シヴァ『生きる歓び』、ベアリング+キャッシュフォード『女神大全』、中沢新一『カイエ・ソバージュ』、ジョルジュ・バタイユ『ラスコーの壁画』『エロティシズム』、ミルチャ・エリアーデ『大地・農耕・女性』他。																																																
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 30% 課題の成果（試験、レポート） 70%																																																

授業科目名	アート&ルーツ演習 1	担当教員名	皆川嘉博、芝山昌也、山本太郎、石倉敏明
授業科目区分	専門専攻科目-アート&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	8単位(120コマ)
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>本授業では「テーマと造形」を課題として、テーマを正確に設定してから、作品の制作に取り組む。作品のテーマは大きく分けて、「時間」、「場所」、「空間」の三つのキーワードから連想されるテーマを設定していく。上記のキーワードの「時間」とは、例えば「江戸」や「縄文」などの時代の事も含み、「場所」とは、「秋田」や「東北」などの地域を含む。また「空間」とは「遺跡」や「里山」などを含む。</p> <p>そして、設定したテーマについて、より深く調査、分析をして、客観的な考察を加え言語化する。そして、各々のテーマに適した造形表現形式で創造していく。</p> <p>本授業を通じて、テーマ(言葉)の設定から完成に至るまでのプロセスを知り、そのテーマから派生したイメージを、実際にはどの様に造形作品に置き換えていくかを体験し、造形作品におけるテーマの意味を理解する。</p> <p>本授業は、アート&amp;ルーツ演習2、アート&amp;ルーツ演習3へと段階的に進んでいく。</p>			
<b>授業計画</b> <p>授業の1/3はテーマ設定に関する演習を、2/3は作品制作に関する演習を行う。</p> <p>第1回 授業の概要や日程について(ガイダンス)。  第2-7回 造形作品のテーマ設定を考察する。  第8-12回 テーマの決定、および、その調査内容や方法について。  第13-33回 テーマについての調査、考察を開始(フィールドワーク)。  第34-38回 調査についてのレポートを作成。  第39-40回 レポートプレゼンテーション。----①講評</p> <p>第41-43回 レポートを活かした造形作品のアイデアスケッチ----②講評  第44-53回 マケット制作、下図制作----③講評  第54-55回 日本画、彫刻・彫塑に分かれ、道具や設備についてガイダンスを実施する。  第56-59回 材料の準備、道具づくり。</p> <p>第60-75回 本制作開始(日本画、彫刻・彫塑)。  第76-77回 受講者全体で講評(レポートとの整合性など)を行う。----④講評  第78-118回 本制作(日本画、彫刻・彫塑)  第119-120回 完成作品展示、プレゼンテーション----⑤講評</p>			
<b>テキスト</b> なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 講評の時点での作品を①10点②10点③10点④10点⑤10点の50点満点で採点し、授業への取り組み状況を50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。3分の2以上の出席と、作品点数60点以上を単位認定要件とする。			

授業科目名	アーツ&ルーツ演習 2	担当教員名	皆川嘉博、芝山昌也、山本太郎、石倉敏明
授業科目区分	専門専攻科目-アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	6単位(90コマ)
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>本授業は「アーツ&amp;ルーツ演習1」で学んだテーマ設定を重視しながら、それを造形表現へと発展させるプロセスのなかで、テーマ設定の部分をより深く探っていく「ルーツ」についての調査研究を行う。つまり、これはアーツ&amp;ルーツ専攻の「アーツ&amp;ルーツ演習3」へと継続する為の「フィールドワーク」を中心にした授業である。</p> <p>本授業では、秋田や東北の地域文化をより深く調査、探求し、最終的に調査の成果を小論文にまとめ、プレゼンテーションで発表する。調査するテーマは、特に秋田や東北地域と関わるものを中心とする。例えば、秋田にある縄文時代の遺跡、民話や説話、来訪神儀礼や修験芸能、里山・里海の生活文化、秋田蘭画、民藝や生活工芸などから、創作次元の源泉となる独創的なテーマを探し、これを調査研究する。</p> <p>最終的には、記録と表現を兼ねる民族誌的作品の制作により、秋田や東北文化の独自性を正しく理解したうえで、地域文化に深く根ざした芸術創造の在り方を考察していく。</p> <p>履修条件：アーツ&amp;ルーツ演習1の単位を取得していること。</p>			
<b>授業計画</b> 第1回 授業の概要や日程について(ガイダンス)。 第2-5回 地域文化(歴史・民俗・風土・信仰等)を知る資料調査。 第6-10回 テーマの決定、および、その調査内容や方法について。 第11-20回 テーマについての調査、考察を開始(フィールドワーク①) 第21-24回 調査に基づいたレポートを作成。 第25-27回 プレゼンテーション《1》【観察】----①講評 第28-32回 比較考察のための資料調査。 第33-35回 民族誌的アプローチのアイデアを発表----②講評 第36-44回 民族誌的アプローチによるフィールドワーク② 第45-50回 民族誌的視点から見たレポート(記録、考察、映像、地図、暦等)を作成。 第51-53回 プレゼンテーション《2》【構想】----③講評 第54-57回 民族誌的視点に基づいた芸術創作についての資料調査。 第58-70回 フィールドワーク③ 第71-80回 民族誌的作品の作成。 第81-88回 受講者全体で講評(レポートとの整合性など)を行う。----④講評 第89-90回 プレゼンテーション《3》【創造】----⑤講評			
<b>テキスト</b> なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 講評各回を①10点②10点③10点④10点⑤10点の50点満点で採点し、調査・発表への取り組み、出席状況を50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。3分の2以上の出席と、プレゼンテーションの点数60点以上を単位認定要件とする。			

授業科目名	アート&ルーツ演習 3	担当教員名	皆川嘉博、芝山昌也、山本太郎、石倉敏明
授業科目区分	専門専攻科目-アート&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次前期	単位数	8単位 (120コマ)
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>本授業では「フィールドワークと造形」を課題として、「アート&amp;ルーツ演習 2」のフィールドワークによって得られた研究成果をベースにして、地域の歴史文化から学んだルーツと、現在の芸術表現とを融合させた作品の制作に取り組む。また、ここで制作する作品は現代的な日本画を軸とした平面作品または、現代的な彫刻・彫塑を軸とした立体作品とする。</p> <p>最終的な卒業研究（アート&amp;ルーツ専攻）で本専攻が目指す、地域の歴史や文化を根源にした新しい領域の作品づくりへと繋げていく。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>授業の 1/5 はテーマ設定に関する演習を、4/5 は作品制作に関する演習を行う。</p> <p>(第 1 回-24 回)</p> <p>第 1 回 授業の概要や日程について (ガイダンス)。</p> <p>第 2-8 回 造形作品のテーマ設定を考察する。</p> <p>第 9-10 回 テーマ発表。----①講評</p> <p>第 11-22 回 テーマをベースとした作品プランや作品マケットの作成。</p> <p>第 23・24 回 作品プランや作品マケット発表。----②講評</p> <p>(第 25 回-60 回)</p> <p>第 25-30 回 レポートを活かした造形作品のアイデアスケッチ----②講評</p> <p>第 31-52 回 マケット制作、下図制作----③講評</p> <p>第 53-55 回 日本画、彫刻・彫塑に分かれ、道具や設備についてガイダンスを実施する。</p> <p>第 56-60 回 材料の準備、道具づくり。</p> <p>(第 61 回-120 回)</p> <p>第 61-75 回 本制作開始 (日本画、彫刻・彫塑)。</p> <p>第 76-77 回 受講者全体で講評 (レポートとの整合性など) を行う。----④講評</p> <p>第 78-118 回 本制作 (日本画、彫刻・彫塑)</p> <p>第 119・120 回 完成作品展示、プレゼンテーション----⑤講評</p>			
<b>テキスト</b>			
なし			
<b>参考書・参考資料等</b>			
参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b>			
<p>講評の時点での作品を①10点②10点③10点④10点⑤10点の 50 点満点で採点し、授業への取り組み、出席状況を 50 点満点で採点する。その二つの合計 100 点満点を学生の成績とする。3分の2以上の出席と、作品点数 60 点以上を単位認定要件とする。</p>			

授業科目名	アートプロジェクト演習	担当教員名	皆川嘉博、芝山昌也、山本太郎、石倉敏明
授業科目区分	専門専攻科目-アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>本授業では、地域社会で行われてきたアートプロジェクトの目的やアーティストの関わり方について理解を深めて、実際に地域社会で展覧会開催に必要な知識を学び、企画、立案について考え、実施までを行う。</p> <p>特に、国際的な越後妻有アートトリエンナーレや秋田地域で行われているアートプロジェクト（あきたアートプロジェクト（秋田市）、KAMIKOANI プロジェクト（北秋田郡）、ネオ・クラシック・カクノダテ）などに参加する為の具体的なプランを専攻の学生グループで企画し提案する。そのような提案を通じて、アートやアーティストが地域社会で如何なる役割を持っているかを考察させる。また、具体的な企画書の作成、申請、応募、運営などの実務や運営体制の構築なども行わせる。</p> <p>そして、アーツ&amp;ルーツ専攻の新しい表現の場、地域社会から発言を行う新しい形を考察させていく。</p>			
<b>授業計画</b>  <p>第1回 授業の概要や日程について（ガイダンス）。</p> <p>第2・3回 実地調査（リサーチ、インタビュー）。</p> <p>第4・5回 グループによる企画立案。（1グループ3名程度）</p> <p>第6-8回 グループによるプレゼンテーション。</p> <p>第9-12回 企画実施に向けての準備。</p> <p>第13・14回 中間プレゼンテーション。----①講評</p> <p>第15-28回 企画実施（制作、ワークショップ、展示、広報など）</p> <p>第29・30回 研究成果プレゼンテーション----②講評</p>			
<b>テキスト</b> <p>なし</p>			
<b>参考書・参考資料等</b> <p>参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。</p>			
<b>学修成果の評価方法</b> <p>講評の時点での作品を①25点②25点の50点満点で採点し、授業への取り組み、出席状況を50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。3分の2以上の出席と、作品点数60点以上を単位認定要件とする。</p>			